

平成21年2月16日

## 大阪新歌舞伎座などで構成する 「上本町駅南複合ビル(仮称)」工事現場に、ユニークな仮囲いが登場!

～「舞台ことば」を散りばめて、新たな「芸能文化発信拠点」の息吹を感じるデザインとします～

近鉄では、創業百周年記念事業の一つとして、平成22年夏のオープンを目指し、大阪新歌舞伎座・商業施設・オフィスで構成する「上本町駅南複合ビル(仮称)」(地下1階、地上13階建て)の建設工事を鋭意進めております。

この度、工所用仮囲い(北面)に「舞台ことば」を散りばめたデザインを施すことで、芸能文化の薫りを醸し出し、オープンまでの期間にも、周辺地域の方をはじめ上本町を訪れる多くの方に、新たな「芸能文化発信拠点」の息吹を感じていただきたいと思います。

また、上町筋沿いの工所用仮囲い(西面)についても、上本町や阿倍野が位置する上町台地に展開する新旧の建物群と伸び行く双葉との合間を天王寺区の町名を列挙して表現した「風」が吹き抜けるデザインとすることにより、上町台地の悠久の歴史と、新たな芸能文化の拠点とが融合し、地域に溶け込んでいくことを表現しました。

### 記



「舞台ことば」(北面)



「上町台地の新芽」(西面)

## 詳細

1. 設置場所 上本町駅南側「上本町駅南複合ビル(仮称)」建設工事現場 北面および西面  
(住所: 大阪市天王寺区上本町6丁目)



2. 設置期間 平成21年2月13日(金)~平成21年11月頃まで(予定)

3. 寸法 北面: 高さ約3m、横幅約3.0m  
西面: 高さ約3m、横幅約3.3m

### 4. デザイン

#### (1) 北面

テーマ: 「舞台ことば」

デザイン詳細: 由緒ある劇場で使用される伝統的な緞帳の一つ「<sup>しょうしきまく</sup>定式幕」の3色(黒・柿色・<sup>もえぎ</sup>萌葱色)で上町台地を表現し、その上に舞台用語を浮遊させることにより、この場から発信される力強く華やかな芸能文化を表しています。

二羽の鳳凰が向き合う円形の意匠は、「大阪新歌舞伎座」の紋章であり、古今から大阪文化の中心として栄えた上町台地と新たな文化発信拠点である新歌舞伎座との融合をビジュアルとして表現しています。

#### (2) 西側

テーマ: 「上町台地の新芽」

デザイン詳細: 緑の丘は縄文の昔から日本史の中に登場する上町台地を表現し、その上にそびえ立つ新旧の建物群は、この台地に流れる悠久の歴史を表現しています。

建物群の間から伸びる双葉は、上本町の新たな歴史の萌芽を象徴するものであり、その中を吹き抜ける風をイメージした曲線には上本町のある天王寺区の町名を織り込み、新たな芸能文化の拠点が地域に溶け込んでいくことを表現しました。

以上

(参考1)「上本町駅南複合ビル(仮称)」の概要

所在地：大阪市天王寺区上本町6丁目(近鉄上本町駅南隣)

敷地面積：約5,500㎡(歩行者広場合含む)

延床面積：約38,000㎡

投資額：約130億円

構造規模：地下1階 地上13階建 鉄骨造

- ・商業ゾーン 地下1階～地上5階
- ・劇場ゾーン 地上6階～地上8階
- ・オフィスゾーン 地上7階～地上13階

オープン：(予定)平成22年夏(当社創業百周年)

(参考2)上本町駅南複合ビル(仮称)仮囲いに掲出する舞台用語(抜粋)

用語	読み方	意味
馬立	うまたて	舞台の下手、上手などの舞台袖に建てられた枠組で、劇場備え付けの大道具の張物や切出しなどを、立てて格納するための場所をいう。
大迫り	おおぜり	主に大道具を乗せて舞台転換に使用する、舞台正面中央にある大型の迫りのことをいう。
紗幕	しゃまく	織目が粗く透ける布地で作られた幕の名称。
書割り	かきわり	背景や張物に、風景や家具や建物などを描き込んだものをいう。また書き込むことを「書き割る」という。縦横の直線で構成される日本の家屋の背景をキッチリと定規で線を引いたように描くことから出た言葉。
地絨	じがすり	舞台床に敷き詰める布のことをいう。演目によって色は選択されるが、ネズミ色・茶褐色・黒などがよく使われる。
水引(幕)	みずひき(まく)	緞帳の直前にある一文字幕のことをこのように呼ぶ。簡便に舞台開口高を調節する役目もある。
柝	き	拍子木ともいう。歌舞伎、人形浄瑠璃だけでなく、演芸、民族芸能、相撲、見せ物など催物の開閉、口上などの合図に用いられる。
半丸	はんまる	後が平面で、観客に見える方の面だけ立体的に見えるように作った大道具や小道具のことをいう。
白録	びやくろく	二重舞台に上がったたり、降りたりするための台のことをいう。
綱元	つなもと	舞台下手袖または上手袖の壁面に設置された、いろいろな吊物昇降用の「引き綱」の設備がまとめられている所のことをいう。
道具帳	どうぐちょう	舞台装置のデザイン、大道具製作のための設計図のことをいう。
八百屋飾り	やおやかざり	舞台の床の後方を高く、前方を低く斜面にして、その上に遠視画的な遠近法によって遠見の風景、大広間等を飾ること。応じて衣装の肌脱ぎを手伝ったり、演技の介添えをする役。
一文字(幕)	いちもんじ(まく)	舞台間口一杯の幅で舞台上部に緞帳と平行に吊られた細長い黒幕で、吊り上げられている大道具や照明器具を、観客の視線から遮るための物をいう。
見切り	みきり	下手、上手の舞台裏を隠すために舞台袖から出す張物または切出しのことをいう。吊った張物や幕の場合もある。「突き出し」ともいう。
開帳場	かいちょうば	舞台やスタジオの舞台装置で、床を任意の方向に傾斜させ、俳優が昇り降りできるようにした大道具。山道や坂道などに用いられる。
柿落し	こけらおとし	新築あるいは改築した劇場の初興行をいう。
楽日	らくび	最後の興業のある日。
大臣柱	だいじんばしら	プロセニウムアーチのうち縦の柱。能舞台では向かって右手前の柱。
定式幕	じょうしきまく	狂言幕。歌舞伎の幕として有名。柿、黒、萌葱の縦縞の幕。

上記ほか20語含め全39語を掲出